

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2012.03.No175

3月号

目次

特集東日本大震災 被災地 東北へ行き感じたこと…1
道士会の動き……………5
実行委員会報告……………6 [女性・青年・制度]
支部だより……………7 [余市・古平・空知]
information……………8

URL <http://www.h-ab.com/>

特集東日本大震災 被災地 東北へ行き感じたこと

青年副委員長 齋藤勝哉 (旭川支部)

『福島県・青年の集い』

被災した建築士会東北ブロックからの「被災後同じ支部の仲間の顔を見ていない、会えない、だからこういった集いを通じて集まりたい」という強い要望があり、平成23年11月12日、13日開催され全国から青年建築士が大勢参加しました。

大震災後に建築士が行った様々な活動の問題点を整理し、今後の活動の見直し、復興に対して何ができるのかを青年建築士で話しあう必要もありました。「百聞は一見に如かず」道青年委員会では、有志を募り13名のメンバーで参加しました。一年が経過する今、少しでも多くの方々に、被災地の現状を知ってもらうために三度目の大震災特集を企画しました。
(情報委員会)

◇ はじめに

平成23年3月11日午後2時46分。最大震度7、マグニチュード9.0の大地震が東北地方三陸沖で発生しました。

その時私は新千歳空港のテナント工場の現場管理者として現場の3階に詰めていた時で、S造での工事中にはよくある重量物の運搬をしているような振動があり、この時には「随分重いものを運んでいるんだな」くらいにしかなっていませんでした。次の瞬間、大きく水平移動したように感じ、と同時に据え付けてあったレーザーレベルの赤いラインが大きく揺れていることで地震だということに気が付きました。

直後、現場退避のアナウンスがあり駐車場の自家用車の中で待機しながらテレビを点けて啞然としたのを覚えています。その日はそのまま現場休止となり、千歳市内のホテルにて幾度となく起こる余震を感じながらPCでの作業をこなしていました。

被害の状況が少しずつ明らかになってくるにつれて、事態の凄惨さに驚くばかりでした。

1月18日現在、

死者数 15,844人、行方不明者数 3,393人、
全壊戸数 128,578棟、半壊 240,521棟、
一部損壊 659,962棟

という史上最大級の災害となりました。さらに福島での原発事故の影響が深刻な問題となっています。

この震災を受けて、大阪で予定されていた全国大会の中止が早々に決定されました。

そんな中、「東北で全国大会に代わる『青年の集い』を行いたいとの意向がある」との話を聞いた時にはとてもうれしく思い、また、道青年委員でも応援しようということで一致しました。最終的に福島県の『青年の集い』を時期を変えた形として11月に郡山市での開催ということになりました。この話が本格化したころには、原発事故の情報もかなり出揃ってきていた時期だったと記憶しています。福島に行く事を身近な人たちに話したところ、安全性を懸念する意見が少なからずありました。ここにも必要以上に不安をおおるような報道の影響が表れているように感じずにはいられませんでした。

昨年9月の全道大会の時、青年委員会担当のC分科会では(社)宮城県建築士会青年部会会長 奥山崇氏を招いて、震災当時の事を建築士として、一被災者としてお話いただきました。その後の懇親会では、お酒の力もありましたが人前では話せないような辛い状況のことや酷い惨状の話を涙混じりに話していただいたことが印象に残っています。福島の『集い』での再会が楽しみとなりました。

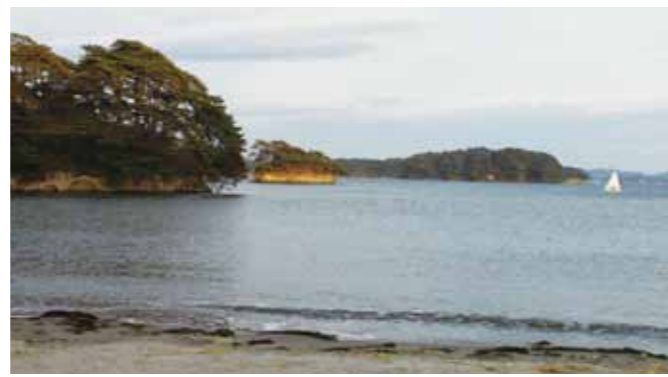
そして当日、北海道から13名の有志で参加してきました。日程の都合もあり、ごく一部とはなりましたが福島県をはじめ、被災した地域を見てことができました。被害の状況、復興・回復の速度、住民の強さ、何もかもが想像をはるかに超えていることに驚きと心強さを感じたと同時に、まだまだ時間の必要な事も実感しました。

◇ 参加者からのコメント

今回福島へ行って感じたことを同行のメンバーの中から当時の青年委員に感想やコメントをお願いしました。ここで紹介させていただきます。

今回、福島県建築士会青年委員会の「青年の集い」に参加させて頂き、地元の建築士の方や行政の方の震災時・震災後の様子、復興に向けた取り組みと苦労について伺い、2日間福島県と宮城県を廻り感じたのは、震災後8ヶ月たち地元の方たちは悲しみを乗り越え復興に向け力強く歩んでいる事でした。そして仮設住宅を見学させて頂き、実際家を失った被災者の方や原発により家に戻れなくなった方を目の当たりにすると、「被災者の方のために自分には何が出来るのか？」と、自分に問かけ何も出来ていない自分にある種「罪悪感」に近い感覚が胸にこみ上げました。実際震災後個人的にも、建築士会等の団体などでも募金、義援金には出来る限り協力はしてきましたつもりでしたが、それだけではいい訳もなく、だからといって仕事を投げ出し東北に乗り込こむことは実際不可能だからです。そして自分で何をしなければいけないのか考えましたが、自分は地元でより一層がんばって仕事をして、地元の経済や建築業界に寄与し日本全体のボトムアップが長期間かかる復興には必要な事と思いました。

旭川支部 萩川 正人



日本三景 奥松島

松島エリアは『湾』になっている為、点在する島々が緩衝材となり、津波の勢いを弱めたので周辺地域に比べると被害が少なかったという事です。そのおかげもあって、震災後いち早く復旧し観光客が戻ってきているとのことでしたが、まだまだ人出は少なく例年の3分の1程度でした。波が穏やかでとてもあの津波を引き起こしたとは思えないほどの静けさでした。映画の舞台になりそうな、美しい自然の島と風景。その自然の美しさと、がれきで散乱する街とのギャップがあまりに酷すぎます。



仙台市宮城野区岡田地区の家屋

宮城県塩釜市 国道45号線沿い

雑巾を絞るかの様にねじられ、と同時に前後に押し潰した状態の車。震災後、8ヶ月経過した今もお放置されています。沖に打ち上げられた大型船舶はオブジェとして敢えて残す検討がなされているようですが、この車もそうなのではないでしょうか。それとも、ただ、処理が遅過ぎるだけなのではないでしょうか。



塩釜市 国道45号線沿い

写真奥は田畑が津波の影響でまさに塩漬けの状態です。復興までの道のりは長くて険しい。

素晴らしい夕焼けの光は復興までの明るい兆しのように。『何とかしよう』の東北地方の方言は『なじょにかすっべ』と言います。この機会・活動・ボランティア活動が次に繋がるように『なじょにかすっべ』。被災地の方々頑張ってください、ではなく、また必ず応援に来ます。

日高支部 三嶋 克昭



震災後の仙台市宮城野区岡田付近の衛星写真

昨年3月の東日本大震災から8ヶ月がたち全国大会（大阪大会）も中止になり青年のなかでは、被災地になにかしら元気を取り戻してほしいという声が多く、有志ではあるが、福島青年の企画する「集い」に参加しようということになり、元気な日本、元気な建築士会（建築業界）になるため、私たち青年建築士にできることはないのでしょうか？という思いで参加してきました。仙台に下りてびっくりしたのが空港は被災のあとがほとんどわからないほど復旧していたことでした。そして、もうひとつ驚いたのは、福島の郡山市の駅前パットは震災のあととは感じませんでした。駅前ビルの10階の外壁の亀裂が地上からも目視ではっきり見えたことでした。

札幌支部 小町 美穂



東日本大震災報告会の中で ○電話が繋がらない… ○原発事故の状況をテレビで知り、町民全員を避難させた… ○避難先の村の全世帯が炊き出しをしてくれた… ○仮設住宅の不足… ○被災住宅入居者のケア… ○県産材、県内企業の活用… などのお話が印象に残っています。「通信手段」「連絡体制」「コミュニティー」「災害対応」「復興」が報告者共通の思いだったのではないのでしょうか。自らが被災している中で、業務を遂行している被災地の皆様の姿に頭がさがる思いです。

小樽支部 金谷 祐

偶然通りかかった場所を帰ってからインターネットの地図で見てみたところ、震災前後での航空写真が見つかりました。左の写真は仙台市宮城野区岡田付近の住宅。周りの瓦礫はほとんど片付けられていたが、あちこちに上屋のなくなった基礎だけが取り残されており被害の大きさ・深刻さを感じる事となりました。著作権の関係で被災前の写真を掲載することはできませんでしたが、Yahoo!ロコ-地図 (<http://maps.loco.yahoo.co.jp/>) で同住所付近を検索すると見ることができます。



プレハブ仮設住宅と木造仮設住宅を見学してきました。プレハブ仮設住宅は無機質で、歩いている人が少なく寂しい感じです。一方、木造仮設住宅は木の温もりを感じる外装であり、また外で住民達が話をする光景を多く見かけることができました。思い込みかもしれませんが、建物の差が住んでいる人たちの気持ちを左右させるのかもしれませんが・・・。



福島第一原発周辺の警戒区域付近です。見た目の景色も、空気の匂いも何一つ変わりはないのに、この交差点より向こうへは立ち入ることができません。

住宅や商店などの建物は立ち並んでいるのですが、人や車のいない閑散さは違和感があります。

札幌支部 針ヶ谷拓己

◇ まとめ

参加者を代表して、当時の青年委員の皆さんにコメントや感想を頂いたのですが、他の参加者も同じような感想を持っていました。見ると聞くではまったく違う・・・と言葉では簡単です。実際に被害にあった人の言葉を直接聞いて初めてわかることも非常に多かったと思います。

参加してきた『青年の集い』では

- ① 応急危険度判定活動について
- ② 仮設住宅の建設について
- ③ 応急仮設住宅の現況について
- ④ 罹災証明について
- ⑤ 地域防災と建築士の活動について
- ⑥ 復興住宅について

と震災関連での報告がありました。

報告者の皆様は少なからず被害にあわれた方々です。実体験に基づくお話はとても印象深いものでした。報告後に意見交換会が予定に組まれていましたが、それぞれの思い極まる内容により大幅に予定時間を超過し、急遽意見交換会は中止に。とても内容の濃い報告会となりました。

翌日は福島県内の応急仮設住宅を2ヶ所見学させていただきました。ここの入居者は原発事故での避難者でしたので皆さん自宅は無事だと言うことでした。数人の住民の方と話をすることができました。特に感じたのは、先のコメントにもあったようにプレハブの仮設住宅にお住まいの方はどことなく排他的というか「つけんどん」な印象があり、木造の方はというと、とても気さくでフレンドリーでした。中には「家の中も見て行け！」と見せたがる人も居たほどです。偶々だとは思いますが、この差が環境からのものだとすると恐ろしさを感じました。

それからは原発事故での立ち入り警戒区域まで足を伸ばした後、大急ぎで松島を経由して仙台市内へと。あちこちに生々しい爪痕が残っていたり、スクラップとなった車の山があったりと、未だ復興の途中であることが見て取れました。そんな中で、先述の地図の場所へ。迷い込んだのか、それとも導かれたのか。住民以外通行禁止となっていたところへ入ってしまいました。ここで津波の被害を目の当たりにして皆言葉を失っていました。そんな場所でも近くには住んでいる人もいらっしやるようでした。人の力強さを感じました。

最後になりましたが、今回、大変貴重な経験をすることができました。協力くださった方々、関わった皆様に感謝いたします。また、被災地の最前線で作業に当たっている全ての人たちに感謝と敬意を表したいと思います。復旧復興までは相当の時間が必要です。我々は建築士として持てる技術・知識をもって全力で協力することを誓います。

重要！3月23日開催の通常総会出欠ハガキは返信されましたか？

平成24年通常総会は、新法人移行に向けて定款改正のため正会員数の3/4以上の出席が必要です。

正会員の方は、必ず「通常総会はがき」をご返信ください。

※出欠ハガキを失くされた場合は、本部事務局までご連絡ください。 TEL 011-251-6076

※欠席される場合は、「通常総会はがき」の委任状欄に記載の上、返信ください。

第55回寒地建築技術講習会 CPD特別認定研修2単位

北海道建築士会の会員の多くが実際に被災地で行った応急危険度判定の状況のほか、過去の地震被害のデータや既存住宅の耐震評価の状況、耐震性能と断熱性能の双方の向上を併せ持った性能向上リフォームの実務など、昨年の震災を教訓とするとともに、全国に誇れる北方型住宅の特徴を生かした建築技術を伝えるため、「大震災への備えと耐震性能向上リフォームのポイント」をテーマとして講習いたします。

- 〈開催日〉 3月8日 オホーツク木のプラザ（北見市泉町1丁目3-18）
3月9日 ソレイユ網走（網走市桂町2丁目1番3号）
3月13日 北斗市総合文化センター「かなで〜る」（北斗市中野通2丁目13番1号）
3月14日 旭川市民文化会館（旭川市7条通9丁目50番地）

〈開催時間〉(全会場) 13:30~16:00

〈受講料〉 会員 5,000円（会員外 6,500円）

〈申込方法〉 申込用紙に必要事項を記載し、受講料を添えて、本部または開催地支部へお申込み下さい。
※申込用紙は、ホームページからダウンロードできます。
※郵送でのお申込みもできます。詳細は、ホームページでご確認ください。

3月開催会議

- ◆第1回運営委員会
開催日 3月3日(土)
開催場所 建築士会事務局会議室
- ◆第1回・第2回理事会
開催日 3月23日(金)
開催場所 ホテルポールスター札幌
- ◆平成24年度通常総会
開催日 3月23日(金)
開催場所 ホテルポールスター札幌
- ◆全道青年委員会連絡会議
開催日 3月24日(土)
開催場所 札幌市民ホール

住所等登録事項変更時の届出のお願い

本会では、毎月の会誌発送を会員の皆様よりお届けいただいている内容に基づいて行っております。

住所等会員登録事項に変更がありましたら、お早めに各支部事務局までご連絡ください。

(勤務先等への会誌のお届けもできますので、その場合も各支部事務局へご連絡ください。)

女性委員会

委員長

本間 恵美 (小樽支部)

1月21日(土)に、第1回女性委員会を開催しました。

平成24年度、25年度は、6ブロック12名の委員が中心となり活動します。

今年度の主な活動予定

1. 全国女性建築士連絡協議会
2月17、18日開催の京都大会に9名参加。F分科会「子どもと住環境」で事例発表。
2. ブロック活動
 - ・カラーコーディネーターによる色彩の勉強会(道央)
 - ・省エネルギーな住まい勉強会(道央)
 - ・テーブルマナー講習会(道北)
 - ・第10回お菓子の家づくりコンテスト(道北)
 - ・他、勉強会や交流会など各ブロックで楽しい企画を予定。
3. 全道大会(函館大会)分科会
素材をテーマに道南地域らしさを出せる分科会を企画中。
4. 女性建築士の集い
全道大会翌日(8月26日)に、函館で見学会を開催予定。男女問わず参加大歓迎。詳細は後日。
5. 3部会活動
 - ・子どもと建築部会-全道高等学校家庭科教育研究協議会への講師派遣を予定。
 - ・高齢社会とまちづくり部会
 - ・環境と共生する住宅部会-素材やエネルギーの勉強会。

女性建築士相互の連携と親睦を深めながら、建築士としての研鑽を深められる活動を目指していきます。また、社会貢献につながる他団体との交流も行っていきたいと思っております。

青年委員会 新任あいさつ

委員長

針ヶ谷拓己 (札幌支部)

今年から青年委員長を務めさせていただきます。札幌支部の針ヶ谷です。どうぞよろしくお願いたします。

1月14日(土)、新体制になって初めての青年委員会が行われました。8割近くが新任委員ということもあって、不安でいっぱいだったのですが、全道各地で活躍する青年代表者の集まりということだけあって、濃い議事内容にもかかわらず、スムーズに進行することができました。

青年委員会の今年の事業方針は、「建築士会活動の推進、アピール・・・」。そして建築士(会)のブランド力アップ～“地域社会や生活者”“建築士”“会員”から「いいね」と感じていただけるよう、“地域貢献”“スキルアップ”“仲間づくり”という基本活動の拡充を促していくとともに、その活動を広く社会へアピールすることにより、建築士(会)のブランド力アップに貢献していく～と掲げさせていただきました。

地域に根ざした貢献活動や、建築士の資質の向上を図るスキルアップ活動、そして建築士会としてのメリットである仲間づくり活動を継続して行っていくことが、建築士(会)のブランド力アップに繋がっていくとともに、それぞれが、建築士を目指す人、建築士会への入会者、を増やしていくきっかけとなるものと考えています。

現在は全道各地の青年代表者が集まっただけの「グループ」に過ぎませんが、1年後そして2年後には、より良い活動が実践できる「チーム」となるよう、委員長として務めていきたいと思っております。

制度委員会 最後の委員会

前委員

成田 勝宏 (室蘭支部)

平成23年度第3回制度委員会

日時：平成23年12月17日

13：30～17：00

1. CPD制度の申し込み状況
 - ・12月16日現在、新CPD参加者871名(会員)(うち新規入会者120名)、10名(会員外)
2. 専攻建築士認定申請及び更新申請の受付
 - ・受付期間平成24年1月4日(水)～31日(火)
 - ・更新対象者51名
 - ・更新対象者に対しては、下審査を実施して、案内文を発送済み
3. 平成24年度予算要求内容の検討
 - ・専攻建築士制度費と継続能力開発制度費の内容を検討
4. その他
 - ・建築CPD情報提供制度について
建築士会CPD制度参加申込時における「建築CPD情報提供制度」への参加について、その内容が周知されていないことを考慮して、「建築CPD情報提供制度」参加の説明文と申し込み方法を配布する
 - ・建築士会CPD制度の活用に係る調査(照会)
北海道開発局各開発建設部、北海道各振興局、道内32市へCPD制度の活用状況に係る実態調査を実施

制度委員会終了

専攻建築士、CPD制度の運用が進み、制度委員会は平成23年度で終了となりました。これまで会員の皆様のご理解とご協力、関係各位の皆様に感謝申し上げます。

余市支部

7年ぶりの新入会員

事務局員

芳川 文俊

余市支部は、後志管内の余市町と仁木町内を一円とした支部で、5つの地区に分かれており、正会員は大川地区6名、黒川地区7名、入舟地区6名、沢町地区5名、仁木地区4名の28名で、賛助会員9社を含め37名の道内でも有数の零細支部です。

会員数は毎年のように減少傾向にある当支部ですが、昨年7年ぶりに20代と30代の2名の正会員の入会がありました。

地元では建築関連の仕事に従事している若者が少ない等、状況は厳しいですが、これからも粘り強く会員数増加に向けて頑張りたいと思います。

当支部の主な活動は、支部総会から始まり各会議及び事業への参加です。

昨年は9月に釧路で開催された全道大会に、仕事の都合等で残念ながら1名も参加することが出来ませんでした。

今年は8月に全道大会・函館檜山大会が開催される予定ですので、1人でも多く参加し、少しでも大会を盛り上げるお手伝いが出来たらと思います。

また、当支部の活動の中心である青年委員会についてですが、道央ブロックに所属しており、各支部との情報交換やコミュニケーションの輪を広げております。

当支部は、これからも青年委員会を中心として、少人数ですが地域に根ざした建築士活動を行っていきたいと思いますので、よろしくお願します。

古平支部

「地域差」

支部長

堀江 昭夫

当支部は、古平町、積丹町に居住又は勤務先がある建築士からなる支部で、本年会員が1名増えて正会員18名、賛助会員4社で構成されています。

昨年10月末の会員異動状況報告で、今まで全道一会員数の少ない支部とっていましたが、何んと少ない順では2番目と知り、大変驚きました。

数の話をするると、古平、積丹は大変降雪量の多い地域です。

私は高齢の母の世話をするため週2～3回小樽の実家へ行きます。

朝古平を出る前に、玄関、車庫前、道路除雪の置き雪を除雪して出発しますが、小樽へ着くと雪が降った様子もありません。

古平へ戻る時も小樽、余市と途中で雪は降っていないのに、古平の町へ入る沖歌トンネルを出るとかなりの雪が降っていて、国道も積雪となっています。

トンネルを出ると吹雪だった事がよくあります。

古平町役場の観測データから、本年1月16日現在の降雪量144cm、累計降雪量は561cmと小樽市の倍以上あります。

過去30年間のデータでは、平成17年度の年間降雪量は13m 4cm、最大積雪量は2m28cmが最高でした。この年は新聞報道もあり、除雪しても次々と降る雪には、追いつきませんでした。

昨年度も雪が多く、年間降雪量11m21cm、最大積雪量は200cmありましたが、新聞報道もなく、町民はただひたすらに除雪をしていました。

同じ日本海に面して、小樽市とは40kmの距離、この地域差は？

空知支部

ドカ雪と通常総会

事務局員

廣川 信幸

事務局が所在する岩見沢市では全国版のテレビニュースに取り上げられる程の記録的なドカ雪が降り、災害派遣として自衛隊が出動する事態となりました。2月2日時点で降雪累計は728cmとなっています。例年、雪捨て場に堆積された雪山が完全に消えるのは7月頃になりますが、今年は少し残るのでは？と言う会話もあるくらいの降雪量です。美しさと楽しさが育まれる北海道の冬ですが、自然の凄さを痛感しています。

支部規約による通常総会を1月20日(金)に開催しました。現在、当支部は13分会で構成され、会員数353名で活動しています。平成23年度の事業報告、収支決算報告、監査報告と平成24年度の事業計画(案)、収支予算(案)、役員改選(案)の議事の審議を行い満場一致で全ての議事が承認されました。また、三笠分会より支部表彰の推薦を受け、岡本政憲さんの建築士会活動42年間の功績を讃え、表彰状と記念品の授与も行われました。総会の開催に当たり、各分会事務局の皆様方には大変お世話になりました。この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

雪解けは遅くなりそうですが、この通常総会が終わると、ほんの少しだけ春の季節が近づく気持ちを感じます。最後になりますが、地球規模で笑心(えがお)があふれる明るい1年となりますことを祈念いたしまして、支部だよりとさせていただきます。

CPD認定プログラム（2月認定）

◆建設工事現場見学会

《日程及び会場》 3月9日(金) 14:00~15:00
 北広島市道営住宅（高台町団地）
 《単位数》 1単位
 《問合せ先》 一般社団法人 札幌建設業協会
 TEL 011-261-6182

◆北海道公共建築設計セミナー（第2回）

《日程及び会場》 3月14日(水) 15:00~17:00
 札幌第1合同庁舎
 《単位数》 2単位
 《問合せ先》 北海道開発局
 TEL 011-709-2311 (内5742)

実務に役立つ建築法規解説2011 販売のご案内

平成24年1月~2月に開催の第45回建築基準法講習会で使用しましたテキストを販売いたします。
 販売予定数に達した時点で終了となりますので、お早めにお求めください。



実務に役立つ 建築法規解説2011

編集＝全道建築行政連絡会議

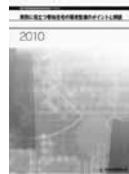
第45回
建築基準法講習会テキスト
◎A 5判 ◎定価：3,000円

図書案内



実務に役立つ寒地住宅性能向上 リフォームのポイント

◎第54回寒地建築技術講習会テキスト
 ◎A 4判・68頁 ◎定価：2,500円
 ◎発行日：2011年刊
 ◎発行：(社)北海道建築士会



実務に役立つ寒地住宅の環境整備の ポイントと解説

◎第53回寒地建築技術講習会テキスト
 ◎A 4判・68頁 ◎定価：2,500円
 ◎発行日：2010年刊
 ◎発行：(社)北海道建築士会



実務に役立つ寒地住宅設計・施工監理の ポイント

◎第52回寒地建築技術講習会テキスト
 ◎A 4判・81頁 ◎定価：2,500円
 ◎発行日：2009年刊
 ◎発行：(社)北海道建築士会



民間(旧四会)連合協定 工事請負契約約款(平成23年5月改正)

◎A 4判・14頁 ◎定価：700円
 ◎発行：民間(旧四会)連合協定
 工事請負契約約款委員会



建築設計・監理等 業務委託契約書類

◎A 4判 ◎定価：1,200円/会員価格：900円
 ◎発行：四会連合協定建築設計・監理
 業務委託契約約款改正委員会



改正建築士法による 重要事項説明のポイント

編集＝重要事項説明内容等検討会
 ◎A 4判・80頁 ◎定価：1,300円
 ◎発行：(社)日本建築士事務所協会連合会
 平成21年10月25日改訂版

※送付希望の方へは書籍に請求書を同封の上、送料着払いで発送しておりますので、FAXにてお申度ください。
 申込用紙は北海道建築士会のホームページからダウンロードできます。

【図書問合せ先】 (社)北海道建築士会 札幌市中央区大通西5丁目11番地 大五ビル 6F
 TEL 011-251-6076 FAX 011-222-0924
 HP <http://www.h-ab.com/>

編集後記

昨年の大震災から1年が経過します。3回目の大震災特集を、現地で実際に目にした青年委員の有志に執筆いただきました。私たちは今後も大震災以後を忘れずに報告していきます。
 制度委員会は昨年末で設立目的を達成したと言う事で、その任務を終了しましたので最後の報告をいただきました。
 会誌の毎月発行は、12回目の発行を迎えました。毎月発行という難事業が成し遂げられるかという不安は、情報委員の努力と執筆頂いた皆様のご協力により解消されました。会員が望む誌面創りを標榜していきますので、忌憚の無いご意見をお聞かせ下さい。
 情報委員会担当常務理事 吉木 隆

情報委員会委員長/岡田 隆
 副委員長/三浦 浩・天城 秀典・神田 光英
 委員/森田ゆう子・岡田 光弘・山下 聡
 用田 史門・高松 徹・道塚 勉

北海道建築士 No.175号

印刷 平成24年2月/発行 平成24年3月

編集・発行 社団法人 北海道建築士会
 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
 大五ビル
 電話 (011) 251-6076番
 URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
 電話 (011) 811-7151番